

みかんの色付きと 収量に手応え！

「ルンルンシート白ピカ」で
ハウス栽培を効率化

SHIROPIKA

静岡県の伊豆に位置する「中美代（なかみよ）みかん農園」さまは、代々続く家族経営のみかん農家。現在は3代目の山田太一さんが中心となり、約2ヘクタールの農地でハウス栽培と露地栽培を組み合わせ、宮川早生やネーブルなど複数の柑橘を栽培されています。

山田さんが特に力を入れているのは、“垣根仕立て栽培”と省力化。樹と樹の間隔をあえて狭めて反収（＝面積あたりの収穫量）を上げる工夫や、海苔網を枝の支えに再利用するなど、柔軟な発想で栽培効率と品質の両立を目指しています。

今回は、4年前からご使用いただいている「ルンルンシート白ピカ」について、導入のきっかけや使用感、実際の効果についてお話を伺いました。

本記事はWEBからも
ご確認いただけます



『ルンルンシート白ピカ』とは

「ルンルンシート白ピカ」は、太陽光を効率よく反射するために開発された白色の反射・防草シートです。

独自開発の特殊な白い糸が光を反射し、果実全体に太陽光を届けることで、色付きの促進や品質向上が期待できます。さらに、防草効果や土壌の水分保持、作業効率の改善といったメリットも併せ持っています。



ハウスみかんに光を届ける工夫——白ピカで着色促進を狙う

どのような効果を期待されて『ルンルンシート白ピカ』を使用されているのでしょうか？

うちでは、ハウスの通路部分に「ルンルンシート白ピカ」を敷いて使っています。ハウス栽培だとどうしても光が届きにくい場所も出てきますが、下からの反射で全体的に光が当たるようにしたかったんです。

今年はより効果的に反射光を利用できるよう、根元まで敷き詰める形に戻そうと考えていて、土壌水分過多にならないよう灌水量や施肥量を調整しながら、みかんの糖度向上にも挑戦する予定です



作業性・水はけ・耐久性 ——「もっと良くしたい」から始まった資材選び

『ルンルンシート白ピカ』を採用される前はどのようにされていたのでしょうか？

以前も白色の反射シートを使用していましたが、水の抜け具合や耐久性、作業のしやすさに少し物足りなさを感じていて……もっと良いものがあるのではと、他の選択肢を探し始めたんです。

みかんの着色を良くするためには、太陽光の“反射”が欠かせません。ですが、従来使用していた資材では水分調整や作業性の面で十分な効果が得られず、新たな資材の導入を検討するようになったそうです。

収量アップにも貢献！反射効果と作業効率に手応え

そんな中、2021年に「ルンルンシート白ピカ」に出会い、まずは試しに、1本（1m×100m）購入しました。

『ルンルンシート白ピカ』を使用されてみていかがでしたか？



「ハウスの通路に敷いてみたら、反射効果がしっかり出て色付きが良くなった気がして。収量も増えたんです。

実際、一昨年には10aのハウスで7.8トンの収穫を記録。現在は8aと10aのハウスで宮川早生に使用しており、さらに新設の6aハウス2棟にも展開する予定です。」期待していた色付きや収量の向上に加えて、耐久性や清掃性の高さにもご満足いただいています。

「枝葉を熊手でかいても破れないし、脚立の端で押し集めても平気。4年経っても汚れが少なく、動噴で30kgの圧をかけるだけで簡単に土を飛ばせます」

省力化と品質向上 両立を目指して”より良い”みかんを届けたい

中美代みかん農園さまでは、日々の工夫と試行錯誤を重ねながら、より良い栽培環境づくりに取り組まれています。

反射シートとして「ルンルンシート白ピカ」を導入したことで、みかんの色付きや収量に手応えを感じておられ、今後はさらに使用範囲を広げ予定です。

また、作業性や耐久性といった面でもご自身の栽培スタイルに合っていると実感されているそうです。

「より良いものを目指したい」と語る山田さんの挑戦は、これからも続いていきます。



— 使用商品 | ルンルンシート白ピカ



■ 高い光反射率と遮熱効果を持つ織物防草シート

独自開発した白い糸で従来品より高い太陽光の反射率を実現しました。地面に設置することで作物にあたる光を増やし、光合成促進・果実の色付アップに貢献します。光が乱反射する事で光が届きにくい隅々まで効果的です。

あわせて、シート周辺の温度・地温上昇も抑えます。織物なので水が抜け、水たまりになりにくいです。



商品紹介ページ

